

6次産業化部門

鹿児島県鹿屋市 有限会社ふくどめ小牧場
(代表取締役：ふくどめ福留 としあき俊明 氏)



- 経営規模：3,954頭（母豚300頭、種雄豚24頭、育成豚30頭、子豚1,800頭、肥育豚1,800頭）

(注) 数字は令和2年当時のもの

経営展開のポイント

- ・ 先代が始めた養豚経営を3兄妹が分業。長男はオランダで養豚を学び就農、次男はドイツで食肉加工技術のマイスターを取得して加工部門を立ち上げ、長女は隣接地に整備した直売所兼レストランで販売や商品管理を担当。
- ・ 当初は黒豚の肥育を行っていたが、差別化を図るため、ヨーロッパの希少豚「サドルバック種」を導入。飼育環境の整備等により、出産数が少なく、肥育が難しい品種の飼育・繁殖に成功。
- ・ サドルバック種と自社交雑したオリジナル豚「幸福豚」を開発・育成。それらを使用し、ドイツの製法を再現した約40種のハムやソーセージ等の加工商品を製造。
- ・ サドルバック種及び幸福豚を使用した加工品は、直売所兼レストランや地元の百貨店のほか、都内のレストラン等に販売。百貨店向け商品は食べやすい味にするなどそれぞれの取引先ニーズに合わせた商品戦略を採用。
- ・ 枝肉のうち、ロース肉やばら肉などは生肉として販売し、それ以外のうで肉やもも肉などの部位を使用して加工品を製造。骨は中華料理店へ提供するなど1頭全てを使い切る工夫をしている。
- ・ 豚舎周辺に木々を植え景観の保全に取り組むほか、悪臭対策のため給与する飼料に納豆菌を添加する等、周辺環境にも配慮。6次産業化による経営発展を通じて雇用の創出や地域活性化にも貢献している。